

「業界の健全化」と「お客様の期待を超える、感動と喜び」を追求する美の哲学

日本におけるエステティックのパイオニアとして、業界をけん引し続けるたかの友梨ビューティクリニックの代表取締役会長たかの友梨氏と、ミス・パリ・グループの代表下村朱美氏による対談インタビューが実現！常に業界の最前線で活躍してきたお二人が考える、エステティックが果たすべき役割、そして未来とは——。お二人の言葉からは「停滞期にある」ともいわれる今のエステティック業界を変えるための「ヒント」が見えてくるはず！

下村朱美

ミス・パリ・グループ 株式会社ミス・パリ
代表

短大卒業後、1982年に大阪・難波にエステサロン「シェイプアップハウス(現:エステティック ミス・パリ)」をオープン。以降、日本初の男性専用エステサロン「男のエステダンディハウス」など、国内外にエステサロン、スパ、美容室を展開。同時に美容業界をけん引する新たな人材の育成にも尽力、2008年には「学校法人ミス・パリ学園」を設立し、2023年には美と健康を専門的に学ぶ4年制大学「ビューティ&ウェルネス専門職大学」を開学するなど、精力的な活動を続けている。

たかの友梨

たかの友梨ビューティクリニック
代表取締役会長

渡仏し、本場のエステティックを学んだ後、1978年に「たかの友梨ビューティクリニック」1号店をオープン。以来、肌で悩む女性たちの支えとなると同時に、一流の講師を迎えたアカデミーを開講するなど、エステティシャンの技術向上にも尽力。さらに「愛といたわり」の理念のもと、社会福祉や教育・学術の分野を中心に世界各地で社会貢献活動にも取り組み、2019年には紺綬褒章を受章。また近年は、開発を手掛けるスキンケア・メイクアイテムがテレビ通販番組で大ヒットを記録するなど、美のカリスマとしての活躍の幅をさらに拡大中。

業界の健全化を目指す その想いは今も変わらない

——お二人のお付き合いはかなり長いとお伺いしましたが？

たかの会長(以下、敬称略) 初めてお会いしたのはもう30年くらい前になるかしら？

下村代表(以下、敬称略) そうですね。AEA(一般社団法人日本エステティック業協会)でたかの先生と理事をしていたときですから、もう30年くらいになりますね。私は大阪で開業し、たかの先生は東京が拠点ですからお名前が知っていましたがそれまでは接点がなく……。

——当時、AEAでお二人はどのような活動をされていたのですか？

下村 まずは業界の健全化、そしてそこで働くエステティシャンたちの社会的地位の向上を目指していました。当時から、たかの友梨とミス・パリは業界内でも非常に教育に力を入れていたサロンでした。日本で統一した資格を作り、この資格を持っているエステティシャンであれば高いレベルの理論・技術を身に付けているといったお客様の安心感を作りたいと思って活動をしていましたね。**たかの** 統一した資格を作ることが



COMPANY DATA
たかの友梨ビューティクリニック
1978年9月設立。世界の伝統技術や先端メーを取り入れた直営サロンを日本全国に展開。オルタナティブ・デザインとしてのエステサロンを目指し、美のセラピストの育成と女性の活躍しやすい環境、制度の整備も力を入れている。またエステティックで培った美容技術で厳選した美容成分を配合したエステティシャン「ユメ」を次々に開発発表。テレビ通販番組で記録的ヒットとなるなど、常に最前線で「本物の美」を届け続けている。

できれば、エステティシャンの職域を守ることができると、外国人労働者を入れることもできる。それを目指してAEAを作ったのですが、30年経った今も実現できていないのが現実ですね。

下村 私は今、専門学校や大学の運営もしています。これからエステティシャンを目指したいと学んでいる学生やお客様のためにも、例えば国家資格として認可されるようになれば、この産業は大きく拡大できると思います。日本人のていねいな技術やおもてなしの心は、国内外問わず安心感と共に、日本のエステティック・スパのファンを増やせると思うのです。健康で若々しく、美しく長生きをするために、日本を訪れる観光客が増えるといいですね。

たかの 下村先生は専門学校も大学も運営していらして「本当の教育」をされている方ですし、その活動は先生にがんばっていただきたいという気持ちはあります。でも、統一された資格がなかったとしても、私はエステティシャンはこれからの高齢化社会の中で「寝たきりになる方を作らない」という重要な役割を担うことができる仕事だと思っています。実際、しっかりと肌やボディのお手

入れをしている人は、年齢を重ねても本当に驚くほどきれいで活動的！つまりエステティックにはそれだけの力があるということ。癒しと美しさ、健康を与えられる素晴らしい仕事ですから、自信を持ってがんばってほしいと思っています。

サロン成長の「カギ」は 感動と驚き、喜びの提供！

——今、エステティック業界は「停滞気味」といわれていますが、この状況を打破するために、どんなことが必要だとお考えですか？

下村 この業界も需要と供給を考えると大切ですから、お客様が期待するもの、望むものを提供できなければ離れていってしまうのかなと。だからやっぱり、常にお客様の期待を上回るような感動や驚き、そして喜びを提供することが必要ではないでしょうか。

たかの 今はひとことで「エステ」といっても、私たちのような純然た



るエステサロンだけでなく、医療が提供するクリニックやエステサロンやホテルや化粧品会社が提供するエステサロン、それに鍼灸院がエステティックを取り入れていることもあります。そして今は韓国美容の流れそのままに、きれいになりたいと思ったら「まずはクリニック」という人が増えている。そのなかで私たちの「医師法に触れずにきれいを提供する」というエステティックをどうすみ分けていくかを真剣に考えるときにきていますよね。

下村 今は大学に入学してくる学生も「〇〇になりたい！」という明確な目標を持っている人がだんだん少なくなっている気がします。そういう若い方々に、ちゃんと響く言葉で美容業界の魅力を伝える必要があると思っています。だから今後はもう少しはつきりと、今後のスパ&エス

テティック業界の将来を描き、それを言葉でしっかりと示していかねければならない。そして「美容業界に進みたい！」と、目標や夢にしてくれる人を増やしていきたいですね。

優れた技術とおもてなしで エステティックを「習慣」に！

——今後、さらに力を入れていきたいことがあれば教えてください。

下村 やはり停滞する今の状態から抜け出すための突破口となる「何か」を考えなくてはならないと感じています。よく「ライバルは外にいる」といわれますけれど、その言葉通り、きっとそれは今までにない全く新しいコンセプトのものじゃないかなとも思うのです。大学では教育と並行してさまざまな研究にも取り組んでいますので、今後はその「突破口」になるような研究・開発にも力を入れていくつもりです。

たかの 私も今まで取り組んできた化粧品開発と並行して、現在2軒あるメディカルクリニックを全国的に拡大していき、エステサロンではできない部分のケアが受けられる体制も整えていきたいと思っています。それによって、まずは化粧品でエス



年齢を重ねても変わらぬ
美と健康を提供する
エステティシャンの「使命」に誇りと自信を！

COMPANY DATA
ミス・パリ・グループ
1982年創業。「男のエステダンディハウス」「エスティックミスパリ」を中心に国内外に約90店舗を展開。「世界一受けたいエステ」を掲げるミスパリに比べ「日本のおもてなしの精神」に効果にこだわり、理論技術接客を三位一体で追求。また、学校法人ミス・パリ学園の運営を通じて専門職教育の事業の柱とし、高水準な品質管理と人材育成によってエステティック業界の地位向上とグローバル展開をけん引している。

テティックのよさを知っていただき、サロンでのお手入れにより「もう少しきれいになりたい」という気持ちを芽生えさせ、クリニックに行く——そうしたきれいのための「ホップ・ステップ・ジャンプ」のお手入れの流れを作っていきたいと思っています。クリニックできれいになった後は、またサロンでのお手入れが必ず必要になります。実際、美容医療の現場でも「治療後のケア」に目を向ける先生が増えていきますし、この流れが多くの人の「習慣」になるということです。

下村 そうですね。クリニックでの治療には、どうしても痛みやダウンタイムが伴いますが、サロン施術は「究極の癒し」。しかも続けていけば、いつまでもきれいで健康でいられますし。それに、エステティシャンには「人に喜んでもらうのがうれしい」とか「人に尽くすのが好き」など、ほかの仕事にはないDNAが宿っています。今後はそういう部分をより伸ばしていくことで、日本における美容や健康への興味や関心、エステティックの存在価値が高まるのではないのでしょうか。